

ISECLの記号は、情報学教育協働学習環境のコードです。
Textbookの数字は、教科書のユニット番号です。

学習の方法と形態

教科書：松原（2014）ソーシャルメディア社会の教育，開隆堂.

学習の方法と形態

● 学習の方法

- 方法
- 手法

● 学習の形態 -1-

- 一斉学習
- 個別学習
- 協働学習

● 学習の形態 -2-

- 現実空間と仮想空間を利用する形態

学習の方法 p.40

- 方法とは

手順を明確にして手段を総合して実行する仕方

- 手法とは

方法が明確に提示され，情報手段を使用して，常に一定の結果が得られるようにまとめられたもの

図 1 本書における用語の定義

学習の形態 p.42 (その1)

表1 類似した用語の意味の整理

用語	広辞苑による用語の意味・概念	筆者による概念整理・コメント
共同	2人以上の者が力を合わせて事を行うこと	「2人以上の者が力を合わせる」という意味で、最も広義な表現。
協同	心をあわせ助け合っどもに仕事をする事	「2人以上の者が心を合せて助け合う」という意味で、 <u>心理的側面を重視した表現</u> 。
協働	協力して働くこと	協同と極めて類似した概念。 「2人以上の者が心を合せて助け合い（協力して働く）」という意味で、 <u>心理的側面だけでなく、行為的側面も重視して、ICT活用を強調する表現</u> 。
協調	利害の対立した双方がおたがいに相互間の問題を解決しようとする事	「2人以上の立場の異なる者が、相互間の問題を解決する」という意味で、 <u>連携的側面を重視した表現</u> 。
共働	生物群集や個体群において、各生物の間に見られる相互関係の総称	別の概念なので、対象外。

学習の形態 p.42 (その2)

→行為を伴って（行為的側面）

↓心を合せて（心理的側面）

	同	働
共	<p>共同 common 2人以上の者が力を 合わせる 【最も広義な表現】</p>	<p>共働 coaction 生物群集や個体群において、各生物 の間に見られる相互 関係の総称 ※対象外</p>
協	<p>協同 cooperative 2人以上の者が心を 合せて助け合う 【心理的側面を重視した 表現】</p>	<p>協働 collaborative 2人以上の者が心を合せて助け合い (協力して)働く 【心理的側面だけでなく、 行為的側面も重視するので、 ICT活用を強調する表現】</p>

図2 「共・協」と「同・働」の組み合わせによる意味の差異

教育活動の中で

- 皆(学習者)が「協働して学習する」場面を想定
- そこで、電子黒板やiPadの活用を考えよう
- 電子黒板
 - 表示機能 ディスプレイ←PC
 - 書き込み機能 タッチパネル, ポインタ, マウス, ...
- iPad
 - 説明は省略

メニュー

次に進む ※これより先は非公開です。

PUSH

情報学教育協働学習 (ISECL) へ戻る

[PUSH](#)

情報学教育ポータルサイト (ISEPS) へ戻る

[PUSH](#)

松原研究室へ

[PUSH](#)

情報学教育の展開編

※これより先は、非公開です。